道徳科　二年　地域教材

三次市立酒河小学校

『酒屋ふるさとまつり』が　みんなをつなぐ

「さけがわぁー、わらべだいこぉー」

「ヤァーッ！」

ドン、ドン、ドン、ドン、ドドドドドドドドー

酒屋ふるさとまつりは　酒河小学校の　六年生がえんそうする

「酒河童太鼓」の　力強い音とともに　はじまります。さとしは、

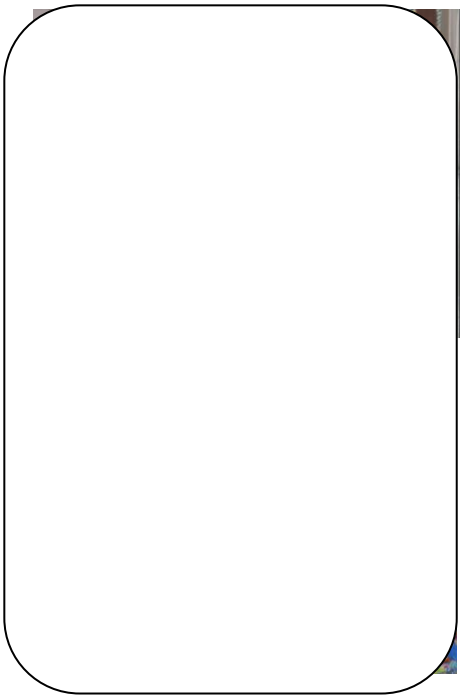
今年初めて　おじいちゃんといっしょに　ふるさとまつりに　やって来ました。朝から　たくさんの人が　酒屋コミュニティセンターに　あつまって、あたりは　とてもにぎやかです。

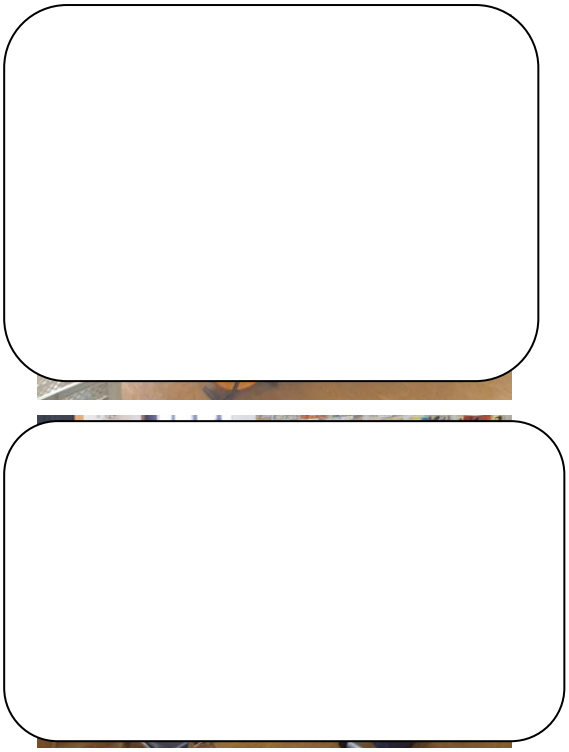
さとしは、ワクワクしながら　あちらこちらを　見てまわりました。

コミュニティセンターの中には、ちいきの人たちのさくひんが

たくさんかざってあります。

さとしたちが　学校でかいた絵も　かざってあります。
しゃせい大会のときに　がんばってかいた絵です。





体験コーナーでは、さとしも「プラばん」を作ったり
電気で動くおもちゃで　あそんだりしました。

外に出てみると、こちらも　たくさんの人で　にぎわっています。

酒河小学校の　ＰＴＡバザーもあります。
さとしは、おじいちゃんに　やきそばとやきとりを買ってもらいました。お昼は、あたたかいうどんを食べて、おみやげに　ちらしずしを買ってもらいました。

おなかもいっぱいになって、大まんぞくしたさとしは　おじいちゃんに
「ねえ、おじいちゃん。酒屋ふるさとまつりって　いつごろから　はじまったの？」
とたずねました。すると、おじいちゃんは　きゅうになつかしそうな顔をして
「この酒屋ふるさとまつりは、四十年いじょうも前からつづいている　酒屋の大切なぎょうじなんだよ。四十年の間には、ちいきの人のねがいによって　まつりの形もかわってきた。
おじいちゃんの友だちの　みの田さんがくわしいから　聞いてみるといいよ。」
そう言って　みの田さんをよんできてくれました。みの田さんは、酒屋ふるさとまつりの　実行委員長さんです。

みの田さんのお話は、つぎのような　ないようでした。

酒屋ふるさとまつりが　始まってから、今年（平成三十年）で四十四年になります。もとは「農業祭」といって、地域を元気にしようと　始めたものでした。地域の農家さんが　たくさんの農産物を　出してくださり、品評会をやっていました。当時は、軽トラで　山ほど白菜を買いに来る人も　大勢いました。

しかし、だんだんと　農業をする人が減り、農産物が出なくなりました。もとは　田や畑だった所に　家が建てられ、新しい人が　ふえてきました。そこで、「地域に合ったまつりにしよう。」と今のような形に　変えたのです。　昔から酒屋に住んでいる人も、新しく酒屋で　生活するようになった人も、みんな仲良くしようという思いが　あったからです。

また、このごろは　大きな自然災害が起きたり、子どもたちが　犯罪にまきこまれたりするなど　心配なことが　増えてきました。何かあったときには、みんなで助け合わなくてはなりません、子どもの安全は、地域みんなで　守らなくてはなりません。そのためには、地域でのつながりが　とても重要です。酒屋ふるさとまつりを通して、地域住民が　仲良くなり、ますます　つながりを深めてほしいと　思っています。

話し終わると、みの田さんは　さとしにこう言いました。

「さとしくんが来てくれて　うれしいよ。子どもの力は　大きいからね。しっかり楽しんで、酒屋を大好きに　なってほしいよ。」

みの田さんの　えがおを見ながら、さとしは　大きくうなずきました。（よし。来年は、友だちをたくさんさそって　さんかするぞ。）と。

【取材に協力してくださった人】酒屋自治会連合会 会長
（酒屋ふるさとまつり実行委員長）　箕田　英紀　様

【文責】深田　真規子